

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 白沢 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	38人	算数	38人	理科	38人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	38人	算数	38人	理科	38人
------	----	-----	----	-----	----	-----

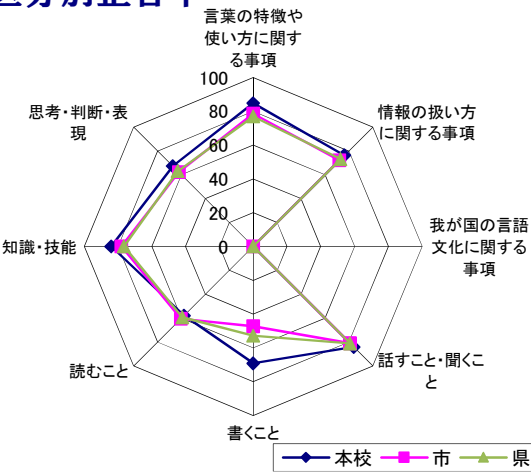
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	84.8	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	76.3	72.2	73.1
	我が国の言語文化にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	84.2	81.0	81.1
	書くこと	69.1	47.2	52.8
	読むこと	57.9	60.5	59.3
観点	知識・技能	84.0	78.0	76.5
	思考・判断・表現	67.3	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

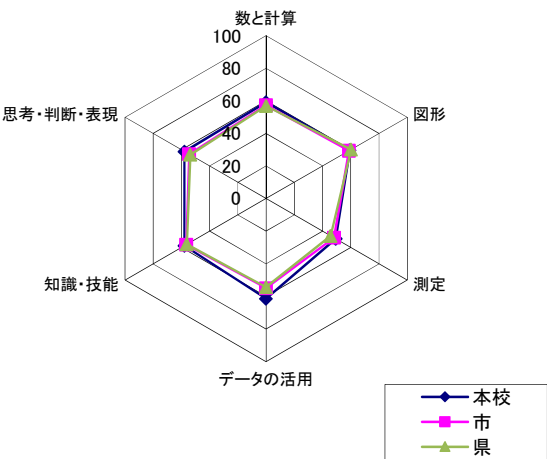
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	領域の平均正答率は84.8%で、市の平均より6.2ポイント高い。 ○文の中における主語と述語の関係を捉える問題では、23.2ポイント上回っている。	・今後も漢字練習や漢字テストなどを計画的に行い、習熟を図るとともに、様々な語に触れる機会を設けていく。 ・主語の表し方は様々あることや、主語と述語が離れて表されている場合があることに留意して指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	領域の平均正答率は76.3%で、市の平均より4.1ポイント高い。 ○国語辞典の使い方を理解して使う問題では、4.1ポイント上回っている。	・国語辞典を使った調べ学習や活動を継続して取り組んでいく。
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は84.2%で、市の平均より3.2ポイント高い。 ○自分の考えを理由を挙げて話すことは、6ポイント上回っている。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、1.8ポイント下回っている。	・学級活動や朝のスピーチ等で、自分の考えを述べる機会を多く設けていくようにする。 ・話し合い活動の場を十分に設定するとともに、意見の共通点や相違点を明らかにしながら、問題を解決していく指導を充実させていく。
書くこと	領域の平均正答率は69.1%で、市の平均より21.9ポイント高い。 ○自分の考えを明確にして文章を書く問題では、22.9ポイント上回っている。	・めあてに沿った振り返りをすることや日記やテーマ作文を書くなどを継続して取り組んでいく。
読むこと	領域の平均正答率は57.9%で、市の平均より2.6ポイント低い。 ●叙述を基に文章の内容を捉える問題では、16.7ポイント下回っている。 ●文章の要約を読み取り、空欄に適する言葉を書き抜く問題では、36.8%の児童が無回答だった。	・並行読書など、本を読む機会や文章の中から中心となる語や文章を見つけて要約する機会を多くとっていく。 ・物語文を読む活動では、叙述に沿って登場人物の気持ちを考えさせたり、キーワードとなる言葉を見つけさせたりする。また、根拠となる叙述を明らかにする学習を行う。 ・説明文を読む活動では、段落の構成を意識させ、書かれた内容を正しく捉えることを意識して指導する。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.1	57.4	56.9
	図形	59.2	58.7	60.1
	測定	49.3	48.1	45.7
	データの活用	61.4	54.9	54.3
観点	知識・技能	57.9	56.6	56.2
	思考・判断・表現	57.9	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

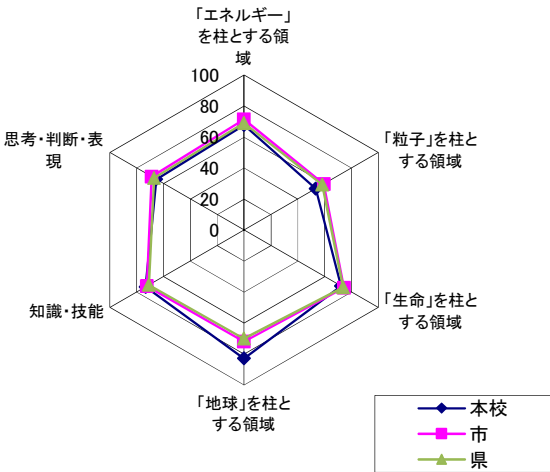
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域の平均正答率は59.1%で、市平均より1.7ポイント高い。 ○数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える問題では、市平均より21.6ポイント上回っている。 ●小数のしくみや表し方を答える問題では、市平均より8.6ポイント下回っている。	・今後も、計算ドリルやスマイルネクストドリル等を活用し、計算問題に繰り返し取り組み、基礎基本の定着を図る。 ・具体物を用いたり、日常生活と関連づけたりしながら数の大きさを指導する。
図形	領域の平均正答率は59.2%で、市平均より0.5ポイント高い。 ●球を平面で切ったときの正しい切り口の形を選ぶ問題では、市平均より9.2ポイント下回っている。 ○箱の横の長さから球の半径を求める問題では、市平均より9.3ポイント上回っている。	・具体物を用いたり、図を描かせたりする活動を取り入れ、知識・技能の定着を図る。 ・誤答の考え方をなぜ間違いなのか図や式、言葉を使って説明させる活動を行うことで、理解を深められるようにする。
測定	領域の平均正答率は49.3%で、市平均より1.2ポイント高い。 ○単位をそろえて2つの道のりの和を比べ、どちらの方が短い説明する問題では、市平均より7.2ポイント上回っている。	・算数の用語や式を使って根拠を説明させる活動を行い、正しい答えを導く方法を考えることができるようにする。 ・つまづきを取り上げたり、発表者以外の児童にも理由を問うなど、様々な考えを取り上げ、共通点や相違点を考えさせる。
データの活用	領域の平均正答率は61.4%で、市平均より6.5ポイント高い。 ○二次元の表から正しい傾向を読み取る問題では、市平均より8.3ポイント上回っている。	・他教科でも、グラフや表などを丁寧に指導することで、様々な表やグラフを正しく読み取ることができるようにする。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	67.7	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	53.3	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	72.2	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	82.9	72.0	70.1
観点	知識・技能	73.3	72.5	70.9
	思考・判断・表現	65.4	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	領域の平均正答率は67.7%で、市の平均より3.7ポイント下回った。 ○実験結果から、風の強さとものを動かすはたらきの関係について解釈し、表現できるかどうかをみる設問の正答率は84.2%で、市の平均を9.8ポイント上回った。 ●磁石につくものとつかないものを調べた実験の結果から正しく考察している人を選択できるかどうかをみる設問の正答率は42.1%で、市の平均より16.2ポイント下回った。	・実験結果を図や表にまとめたり、結果から考察したことについて話し合ったりする学習を通して、理解を深めていく。 ・身近な事象や、生活経験と関連付けながら、学習への興味関心を高め、知識を身に付けさせていくよう努める。
「粒子」を柱とする領域	領域の平均正答率は53.3%で、市の平均より6ポイント下回った。 ○体積を同じにした時のものの重さのちがいについて考え、表現できるかどうかをみる設問の正答率は市の平均とほぼ同じであった。 ●重さを比較しながら調べる際に、はかりを用いて正しく調べる技能が身に付いているかどうかをみる設問の正答率は81.6%で、市の平均より3.4ポイント下回った。	・実験を行う際には、実験方法や実験器具の使い方など、基本的な知識・技能が身に付くよう、丁寧に指導していく。 ・授業だけでなく、プリントやAIDリルなどを生かし、多くの問題に触れることで、知識が身に付くよう継続して指導していく。
「生命」を柱とする領域	領域の平均正答率は72.2%で、市の平均より2.3ポイント下回った。 ○植物の成長の過程について理解しているかどうかをみる設問の正答率は73.7%で、市の平均より12ポイント上回った。 ●クモとモンシロチョウの体のつくりやあしの数と比較し、クモが昆虫であるか判断できるかどうかをみる設問の正答率は50%で、市の平均より14ポイント下回った。	・実験結果や生き物の成長過程の相違点・類似点について、じっくりと考えたり、文章で書いたりする時間を確保し、思考力を高めるように指導していく。 ・身近な自然環境から得た知識をもとに、主体的に学び考える学習を通して、より学びを深めていけるような授業を展開していく。
「地球」を柱とする領域	領域の平均正答率は82.9%で、市の平均より10.9ポイント上回った。 ○方位磁針の使い方が身に付いているかどうかをみる設問の正答率は94.7%で、市の平均より29ポイント上回った。 ●日なたと日陰について見いだした問題に正対した記録を選べるかどうかをみる設問の正答率は60.5%で、市の平均を上回っているが、1.4ポイントとなっており、この領域の他の設問に比べると思わしくなかった。	・太陽とかげの動きについては、観察や実験を通して、理解できるように丁寧に指導を行う。 ・普段の授業の中で分かることや気付いたことなどをじっくりと考えたり、書いたりできる時間を確保し、思考力を高めるように継続して指導していく。 ・授業だけでなく、プリントやAIDリルなどを生かし、多くの問題に触れることで、知識が身に付くよう継続して指導していく。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○全94項目の質問のうち県平均との割合の差が19ポイント以上の質問項目が6項目あり、そのうちの3項目が共通して家庭や学校における約束についてであった。「学校活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていると思う。」「学校のきまりを守っている。」「家でのかまりを守っている。」がそれぞれ66.7ポイント、79.5ポイント、76.9ポイントとなり、差が21ポイント、19ポイント、23ポイントであることから、日常生活からきまりや約束事を守ろうと心掛けている児童が多いことが分かる。これからも、きまりを守ろうとする心構えをもつように声掛けを行っていききたい。

○「自分ももてる能力を十分に発きたい。」と思っている児童は71.8%と県よりも10ポイント高いことから、今後も、一人一人の個性や能力をのばしたり生かしたりできるよう教育環境の整備に努めていききたい。

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」や予習・復習をしている、宿題以外の勉強にも取り組む児童は、県の割合よりも高くなっている。また「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、一日当たりどれぐらいの時間、勉強していますか。」という質問に対し、「2時間以上3時間以内」の回答者が15%であり、県と比較すると3.8ポイント高く、「30分以上1時間以内」と回答した児童が43%と3.4ポイント高いという結果になった。これらの結果から、学習態度や学習へ向かう姿勢が身に付いてきたと考えられる。

●学習頻度や学習時間を定期的に確保している一方で、「ぎ間に思うことは、分かるまで調べたい。」や「むずかしい問題にでようと、よりやる気が出る。」に対する肯定的回答が県と比べて低い。これらの結果から、自主学習の内容や質に課題があることが考えられる。自主学習の内容を再検討することで、学びの質の向上を図っていききたい。

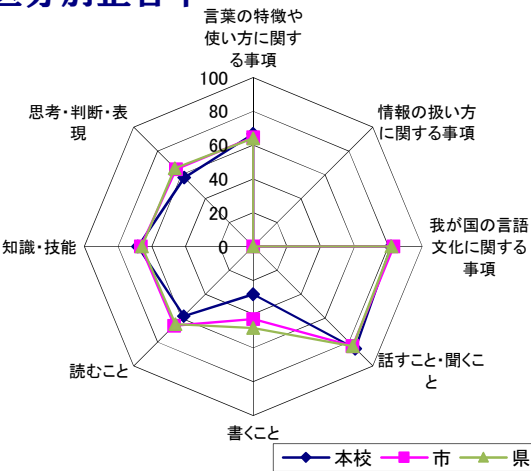
●「自分は勉強がよくできる方だと思う。」や「自分には、よいところがあると思う。」という回答で否定的回答が県の割合よりも高くなっていることから、自信をもって学習したり生活したりすることができないと感じている児童が多いことが分かる。自己の学習や生活を振り返り成果や課題を確認する機会を設け、達成感を感じさせたり課題解決力を養っていくことで、自己肯定感の向上を図っていききたい。

●「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている。」と実感している児童は肯定的回答92.3%と県よりも2.3ポイント高くなっている。しかし、「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」という質問では、「はい」という回答が41%と県と比べて低くなっている。授業の始めにめあて・ねらいを確認するだけでなく、学習の振り返りの中でめあてと達成度を確認し、何を学んだのかを明確にする授業を展開していききたい。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.7	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	81.6	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	85.5	83.3	83.4
	書くこと	28.3	42.8	48.2
	読むこと	58.2	66.1	65.1
観点	知識・技能	68.2	66.5	65.9
	思考・判断・表現	57.6	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

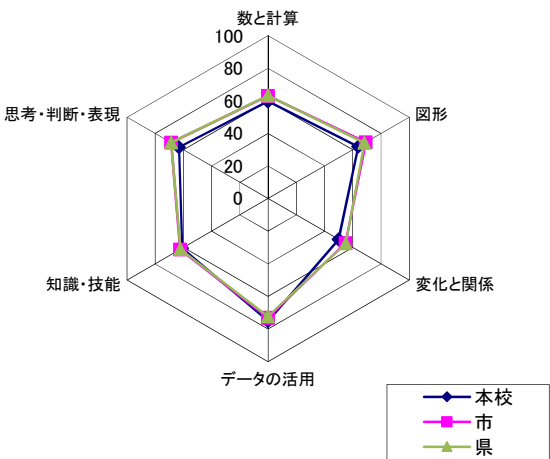
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	領域の平均正答率は66.7%で市の平均より2.0ポイント高い。 ○漢字を読む問題では、正答率が高い。 ●熟語の漢字の組み合わせを理解して、熟語の意味を捉えることは、市平均より14.6ポイント低い。	・音読に取り組ませ、正しい文章や言葉の使い方の定着を図る。 ・熟語の意味や構成について、計画的に指導を行い、積み重ねることで、定着を図る。 ・日常的に読書に親しめるような環境づくりに努め、本好きな児童を育てる。
我が国の言語文化にに関する事項	領域の平均正答率は、81.6%で、市の平均より1.5ポイント低い。 ●ことわざの意味を理解して、正しく使うことができていない。	・ことわざや慣用語を、朝の学習や授業等で積極的に取り上げ、我が国の言語文化に関する知識の向上を図る。
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は、85.5%で、市の平均より2.2ポイント高い。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることは、市平均より7.2ポイント上回っている。	・今後も、自分の考えをもち、他者に伝える活動を積極的に取り入れ、相手にわかりやすく伝えようとする力の向上を図る。また、話し合いの中で目的を確認し、自分の考えをまとめる活動を多く取り入れる。
書くこと	領域の平均正答率は、28.3%で、市の平均より14.5ポイント低い。 ●指定された長さで文章を書くことは、市の平均より10.8ポイント低い。 ●内容を中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことは、市の平均より26ポイント低い。	・文章を書くときには、文章量も意識をさせ、文と文の繋がりを意識しながら自分の考えを書けるように指導していく。 ・事実と考えの区別を明確にして文章を書く活動を通して、整理された文章を書く力の向上を図る。
読むこと	領域の平均正答率は58.2%で市の平均より7.9ポイント低い。 ○文章を読んで理解したことについて、感想や考えをもつことは、市の平均より4.2ポイント高い。 ●登場人物の気持ちを具体的に想像することは、市平均より20.9ポイント低い。	・文学的文章を読む活動では、登場人物の気持ちを叙述を根拠に想像する活動を積極的に取り入れる。また、それを表現する力を向上させるために、語彙力を増やす活動や読み聞かせ等による心の動きの言語化も行う。 ・説明的文章を読む活動では、引き続き、文章を読んで分かったことや感じたことを共有する活動を積極的に行う。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.7	63.0	63.3
	図形	63.8	69.2	68.3
	変化と関係	50.0	54.8	55.0
	データの活用	75.0	73.1	72.3
観点	知識・技能	60.9	62.3	62.1
	思考・判断・表現	63.2	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

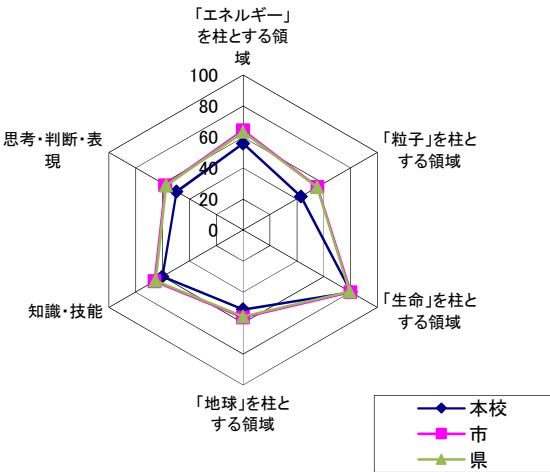
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域の平均正答率は59.7%で市の平均を3.3ポイント下回っている。 ○計算のきまりを理解し、間違いを説明する問題では、市の平均を6.5ポイント上回っている。 ●図から数量の関係を読み取り、一つの式で表す問題では、市の平均を21ポイント下回っている。	・基本的な計算についての習熟を図るために、朝の学習で四則計算の練習を繰り返し行っていく。 ・式が表す数の意味を考えることを習慣化し、図や数直線を見て立式できるように指導していく。
図形	領域の平均正答率は63.8%で市の平均を5.4ポイント下回っている。 ○三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題では、市の平均を6.6ポイント上回っている。 ●三角定規を組み合わせてできた角の大きさの式を選ぶ問題では、市の平均を13.4ポイント下回っている。	・図形の構成要素から図形を見分けたり、図形の特徴に着目したりする活動を授業に取り入れて定着を図っていく。
変化と関係	領域の平均正答率は50.0%で市の平均を4.8ポイント下回っている。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、市の平均を9.5ポイント下回っている。	・伴って変わる2つの数量では、表を横に見たり、縦に見たりしていつも変わらない数や数量関係に着目し、いろいろな場面で立式できるように指導していく。
データの活用	領域の平均正答率は75.0%で市の平均を1.9ポイント上回っている。 ○折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題では、市の平均を7.2ポイント上回っている。 ●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから傾向を読み取る問題では、2.9ポイント下回っている。	・社会科の雨温図などの複合グラフを読み取る場面での指導の機会を大切に、児童が着目すべきポイントを意識し、グラフを読み取ることができるように指導していく。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	55.9	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	43.2	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	80.3	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	51.3	56.4	55.8
観点	知識・技能	60.2	66.0	65.3
	思考・判断・表現	49.6	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	領域の平均正答率は55.9%で、市平均より8.4ポイント下回っている。 ○直列つなぎを理解しているかを問う設問においては市の平均を下回ったが、無回答率は市の平均を0.9ポイント下回った。 ●直列回路と並列回路に流れる電流の大きさの仕組みを問う設問においては、市の平均を15.4ポイント下回った。	・基礎事項の定着を図るために、既習の学習内容をよく復習し、確認してから授業を進める。また、類似問題を多く解く時間を確保していく。系統的な学習をさらに充実させていく。 ・実験や体験する活動を多く設定し、興味関心を高めさせる。
「粒子」を柱とする領域	領域の平均正答率は43.2%で、市平均より12.2ポイント下回っている。 ○水のあたため方について、実験結果を解釈できているかを問う設問においては、市の平均正答率を1.2ポイント上回った。 ●空気と水をあたためた時の体積の変化を実験結果をもとに表現する設問においては、市の平均を29.8ポイント下回った。 ●空気でっぽうの仕組みについて説明している図を選ぶ設問においては、市の平均を24ポイント下回った。	・実験を行う際には、予想・実験・結果および考察という過程を習慣化していく。 ・結果や考察ができるよう、比較や分類の観点をより明確にする指導を取り入れる。
「生命」を柱とする領域	領域の平均正答率は80.3%で、市平均より0.2ポイント上回っている。 ○関節について理解できているかどうかを問う設問においては、市の平均正答率を7.4ポイント上回った。 ●ヘチマの季節ごとの成長の様子について理解しているかどうかを問う設問においては、市の平均を8.6ポイント下回った。	・年間を通じて「観察ノート」をつけたり、総合的な学習や他教科との関連も生かしたりして、季節の変化の様子に触れる機会を作るなど、自然に目を向ける機会を増やすなどの工夫をする。 ・自然事象に関連した学習では、実際に観察したり映像を見たりするなど、実感を伴った理解ができるよう授業の工夫をする。
「地球」を柱とする領域	領域の平均正答率は51.3%で、市平均より5.1ポイント下回っている。 ○空気中の水蒸気が冷やされると結露することを窓に付いた水滴と関連付けて考えられるかどうかを問う設問においては、市の平均正答率を9ポイント上回った。 ●雨の時の気温の変化を表したグラフを読み取れるかどうかを問う設問においては、市の平均を15.7ポイント下回った。	・観察を行う際には、結果や考察を自分の言葉で書かせることを習慣化させ、繰り返し練習することで表現力を高めていく。 ・身近なものの観察から疑問を見つける活動、動画や実物を使った導入、児童の疑問から学習問題を設定することで、実生活と学習内容を結び付けて考えられるようにする。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」と肯定的回答をした児童の割合は100%であった。また、「家で勉強するときに、だいたい同じ時くに取り組みようになっている。」や「学校の宿題は、自分のためになっている。」と肯定的回答をした児童の割合も県平均より高い。これらの結果から、宿題を行う習慣が身に付いている児童が多いことが分かる。今後も、児童が積極的に取り組みたくなるように、宿題の内容を考え、家庭学習の充実に努めていきたい。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。」と肯定的回答をした児童の割合は87.8%で、県平均より4.4ポイント高い。また、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」や「授業の最後に、学習したことをふりかえる活動をよく行っている。」と肯定的回答をした児童の割合も県平均より高い。本校が学習指導で重点を置いている取組が児童に意識づけられているということが分かった。今後も、児童の主体的、対話的で深い学びを目指して授業展開を工夫していきたい。

○「むずかしいことでも、失敗をおそれないでしよう戦している。」と肯定的回答をしている児童の割合が82.9%で、県平均より5.8ポイント高い。また、「時間を上手に使うことを、心がけている。」や「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」と肯定的回答をしている児童の割合も県平均より高い。「人と話すことは楽しい。」と肯定的回答をしている児童の割合も高いことから、縦割り班活動や委員会活動などを通して、主体的に粘り強く取り組む力が養われたと考える。今後も、児童の主体性を大切にしながら生き生きと活動できる場面を設けていくことで、児童のよさを十分に育てていきたい。

●「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている。」や「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」と肯定的回答をしている児童の割合が、県平均よりわずかに下回っている。また、国語・社会・算数・理科の授業の内容をよく理解しているかという質問に、「はい」と回答している児童の割合は、各教科において県の割合より平均で約20%下回っている。これらのことから、「何を学ぶのか」が分からないままに授業を受けている児童が多いということが考えられる。今後は、これまで以上に、学習のゴールを明確にした分かる授業を展開していくことで、確かな学力の定着を図っていききたい。

●「今回の調査で、国語の問題をとく時間は十分でしたか。」という質問に、「いいえ」と回答した児童の割合が12.2%という結果であった。時間内で問題をやりきる力とスキルを身に付ける必要があることが明確となった。読書に親しませたり、朝の学習や家庭学習などで文章を読み書きする機会を設けたりすることで、文章を早く読み進めたり、内容を読み取ったりする力を養っていききたい。

宇都宮市立白沢小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的な学習活動の充実 ・言語活動の充実と質的向上	・学習形態や授業展開の工夫 ・朝の学習における「ことばの時間」の設定 ・学習の振り返りの工夫 ・ICTの効果的な活用	・「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」と肯定的回答をした児童の割合が、4・5年共にほぼ100%であった。 ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域において、4・5年共に市の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎・基本の定着(学習用語の理解) ・文章の組み立てや文の構成についての理解 ・国語の調査で、問題を解く時間が十分ではなかったと回答した児童の割合が1割強 (「読むこと」「書くこと」に関する力)	・朝の学習の取組の工夫 ・授業展開の工夫 ・読書指導の充実 ・家庭との連携	・朝の学習の時間に視写を取り入れる。 ・つまづきを取り上げ、よりよい考え方を探究する対話的な学びを取り入れた授業を展開していく。 ・読書を通して、良い文章に触れる機会を増やす。 ・日記や作文などを家庭学習に取り入れる。